

# ICT研究グループ通信⑩

ICT研究グループ 櫻田

## 共同編集でのトラブルを防ぐ指導

共同編集をする中で、「他の生徒の書いたものを勝手に消してしまう」「内容を勝手に変えてしまう」「落書きをしてしまう」などの行為は、好ましくないことですが、端末が普及し、生徒が活用できるようになる段階で必ずと言っていいほど起こる事象です。それらが起こったときに、私たち教師は“ピンチ”ではなく“指導するチャンス”と捉えて、適切な指導をしたいものです。

以下に指導のポイントをまとめますので、これからの指導の参考にしてください。

### 1、デジタルとアナログ

デジタル作品の良さに「複製」「再現」「復元」がしやすいことがあります。生徒はその良さを身をもって体験しているので、軽い気持ちで誰かの作品（文章）を傷つけてしまいます。誰かの書いた作文を勝手に破ったり、美術で作った作品を許可なく壊したりする行為が悪いことくらい中学生なら分かるはずですが、デジタル作品は形がありません。形がなくてイメージしにくい部分を、アナログの作品に例えてあげると子どもたちは理解しやすいかもしれません。

### 2、道徳の観点から

道徳で学習する内容に「相手の立場に立つこと（思いやり）」「遵法精神・公德心」があります。この場合「自分がされて嫌なことは人にしない」「みんながきまりを守って規律ある安定した社会をつくる」ということだと思います。自分が頑張って書いた文章や、作ったスライドを誰かに勝手に消されたり、変えられたりしたら、どんな気持ちになるでしょうか？そんなことが当たり前のように起こる教室（社会）は居心地がいいですか？というメッセージの道徳の授業をするチャンスです。

### 3、著作権の観点から

生徒が共同で作ったスライドなどは、「共同著作物」または、「結合著作物」になります。「共同著作物」の場合、何をするにも著作者全員の同意が必要です。また、「結合著作物」の場合は、個々の著作物がつながっているだけです。いたずら等をした場合、他者の著作権を侵害したことになります。最悪、罪に問うこともできるということです。このように著作権について学ぶきっかけにもなりそうです。

### 4、学級経営の観点から

ICT機器の普及とともに起こる生徒指導案件は、ICT機器のせいではありません。普段の生活で問題が起こりにくいクラスはICT機器が導入されても問題があまり起きません。つまり、今までは陰で行われて目立たなかったことが表に出ているだけです。目の前で問題が起きたときに、ICT機器のせいにして責任転嫁したり、落胆するのではなく、指導のチャンスに変えていきましょう。結局、私たちが教師が頑張らなきゃいけないのは、普段の学級経営、学級作りだということです。

**頑張ろう！にしちゅう！**